第22回 吹田市総合計画策定委員会議事概要

1　日　　時　平成25年5月1日（水）午前9時から午前10時まで
2　場　　所　吹田市役所高層棟４階　特別会議室
3　出 席 者　別紙（出欠一覧）参照
4　配付資料　(1) 資料-1　総合計画審議会の報告及び基本計画の修正について
　　(2) 資料-2　指標に関する指摘事項一覧
　　(3) 参考資料　吹田市総合計画審議会　議事概要（未定稿）

5　議事内容
(1) 総合計画審議会の報告及び基本計画の修正について
（事務局から資料-1、2、参考資料を用いて説明）
・ 部会による基本計画の審議が一巡したので、指摘事項を整理し、今後各課で対応するに当たって留意すべき点などを議論いただきたい。

【質疑応答事項】

質問1：指標の考え方と示し方について、審議会では矢印がどの程度の上昇を示しているのか分からないという指摘であったので、一律に示してはどうか。目標値の矢印は何ポイント以上右上がりと表現できないか。

回答1：そういう表現も構わないと考える。今矢印で表している指標について、実績値があるものは、推移から今後の予測ができると思われるが、担当課からは矢印のままで具体的な数字が挙がってこなかったので、それはしっかりと表していただきたいと考える。

質問2：人権や公害など100%を目標とすべき指標があるが、100%にしていないものもある。統一しなくて良いか。到達できる目標なのか、めざす目標なのかはっきりすべきである。

回答2：目標値は平成32年度までに必ず達成しなければならないという約束なのか、指標の動向によって施策の改善を模索するための目安とするのか、使い方を理解して欲しい。

意見3：行政として責任が取れる数値なのかと言われると、矢印になってしまうという行政側の事情はあるが、市民に説明できるものでなければならないので、統一的な見解を決めていかなければならない。

意見4：指標によっては、当然100%をめざすというものもあるが、平成32年度までという期間が決められたものである。本来は100%目指すものであるが、平成32年度までに最低めざす値は示すようにする。矢印をすべて無くすことはできないと思うが、矢印はなるべく限定的に使い、数値化

できるものは数値化に努めるようにしてはどうか。

質問 5：資料-2 の No.11 について、審議会では、「年間の火災件数」のような指標は、数値として設定すべきということとなっているのか。火災件数というのは少ないほうが良いわけで、何件までは良いとか数値で表されるものではないと思うが、そういう議論は審議会でなかったのか。0 件と表記する理想型は、目標とする意味がなくなるので良くないと思うので、件数は少ないほうがいいということで下向きの矢印で表すということにはならないのか。

回答 5：年間火災件数は結果なので審議会では、重点取組と関連する指標に改めるべきという意見である。

質問 6：事務局は矢印をなくすことが望ましいと考えるのか。

回答 6：すべての矢印を無くそうとは考えていない。指標の考え方を見直し、メッセージとして妥当でないものについて、指標を変えるなどして改善したい。数は限られるが、実績値の推移から予測でき目標として決められるものは、数値化したほうが望ましいと思う。意識によって変わる満足度を測る指標については、矢印で構わないと思う。

意見 7：0 や 100%という絶対目標は正しいが、設定するのは困難である。類団の平均を目標にするような相対目標とすれば説明しやすい。例えば、環境分野の指標では、ごみ量の 25%減というのは国内外の事例から設定した目標値でありトップランナー指標である。他の指標でもそういった設定ができるものがあるのではないか。

指示 8：今の意見をヒントにし、ベストプラクティスをめざすという例も参考にしてもらいたい。今矢印にしている指標については、非現実的な 100 や 0 を挙げるのではなく、類似都市で一番上手く実施している市まで目標に定めるなど、数値化するときの参考にしていただきたい。市民満足度など、数値に置き換えられないというものは、矢印で容認していただきたい。それ以外は見直し、根拠を明確にして数値化してもらいたい。

指示 9：作業部会に検討してもらい、それで次回の審議会に望むようにする。

質問 10：作業部会の検討結果は、もう一度策定委員会に諮るか。

回答 10：今日は中間報告であり、基本計画の施策間の調整を終えた上で、指標の見直しを含めて策定委員会に報告する。

質問 11：協働についてはどうか。縦割り感をなくすという課題もある。

質問 12：資料-1、1、(1)協働の視点が表せていないとう御意見について、ベース（基本姿勢）は、各ルート（基本方向）全体を推し進めるものという考え方と理解していたが、ベース（基本姿勢）を審議会ではどう捉えているのか。

回答 12：ベースについては 3 月 29 日第 4 回審議会で議論があった。協働する上で行政が何をするかというのが明確でないという御意見があった。また、行政経営と市民自治の 2 つのベースが別々で動いているようなイメージであり、本来は一体であるものという御意見があった。2 点の指摘を受け、行政経営と市民自治の合同作業部会を開いて検討しているがまだ答えは出ていない。審議会の御意見で、今の基本計画の表現は財政難を理由にして市民参画や協働を進めていると誤解される可能性がある。また、上から目線の言い方に聞こえると言われている。電子会議室も使って検討しているが、抽象的な話で意見が出にくく試案しているところである。

意見 13：協働の表現について発言された審議会委員と別の機会に話すことがあった、既に行われている市民のボランティアの活動を、行政の施策に後付けで組み込み、行政がやらせているような表現となっていることが良くないということを言われていた。例えば市民との協力を得ながらとか、諸団体との連携を深めながらなどの表現になるのではないかということを言われた。行政の役割は市民と協働できる施策をともに考え、財政的に支援することである。

回答 13：市民や企業が主体的にやっていることに対しては、「行政が情報提供をしたり、支援をします」という表現になるという助言をもらっている。行政のやっている動きを素直に表現すればよいのではないか。

質問 14：表現が通り一遍になっており、うまく書き表せていないということか。基本計画の市民・事業者の取組の「みんなで取り組みませんか！」につながる表現になることが望ましい。

指示 15：具体的な協働の姿を示す、縦割り間を払拭する、などの指摘を受けて作業部会で修正する。作業部会を中心に議論するが、今日の会議の共通認識の元、各部長の判断で修正をして欲しい。事業レベルから施策レベルに書き換えることについても指示をして欲しい。

(2) スケジュールについて

- 第 1 部会は 5/7、5/13 の 2 回。第 2 部会は 5/17 日に最終回を行う。修正案を審議する。
- 全体会を 6 月中旬から行う。ベースについての審議、及び各部会の修正の報告を行う。事前に策定委員会を実施する。
- 全体会は 3～4 回、7 月末をめどに答申をもらい、行政案をパブコメに 8 月半ば以降かけたい。

以上

１　委員

	構成委員	第22回 (5/1)
1	太田副市長	○
2	山中副市長	○
3	赤野水道事業管理者	○
4	徳田病院事業管理者	○
5	西川教育長	○
6	赤松危機管理監	○
7	牧内総務部長	○
8	門脇行政経営部長	○
9	木下市民生活部長	○
10	木野内人権文化部長	○
11	平野まち産業活性部長	○
12	春藤こども部長	（代理） 増山次長
13	安井福祉保健部長	（代理） 齋藤次長
14	羽間環境部長	○
15	森都市整備部長	○
16	後藤道路公園部長	○
17	井口下水道部長	○
18	西山会計管理者	×
19	松中消防長	○
20	川上水道部長	○
21	前田市民病院事務局長	○
22	原田教育総務部長	○
23	梶谷学校教育部長	○
24	上原教育委員会事務局理事	○
25	川下地域教育部長	○

24

２　事務局

1	美馬次長	○
2	井尻次長	○
3	木下総括参事	○
4	岸本参事	○
5	津田主査	○
6	十川主任	○
7	稲見主任	○

7